

ご あ い さ つ

このたび北海道高等学校教育研究会の3代目の会長に選ばれましたことは、まことに光栄でありましてその責任の重大さを痛感いたしております。

本研究会は、はじめ俗称「旭丘教研」と呼ばれたように初代梶浦善次会長を中心とした旭丘高校の先生方の努力によつて誕生し、次には「校長教研」といわれ、校長各位の努力によつて育てられました。しかし二代長瀬米蔵会長のお力によつて今日会員数5千を越える大研究会に発展いたしましたのは、単に旭丘や校長の努力によるだけではなく、会員の先生方が自らの研究会として積極的に参加された成果でありまして、文字通り「高校教研」というべきものであります。

「高校教師の研究会」として、いつその成果をあげるために、私は次のように考えています。

第1に、本研究会は高校教師の研究会でありまして、学者や研究者の学会とは違い独自性があると思います。第1義的には「教授学習」についての研究と実践が結びついた実践研究を目的とした研究の交流がなされるべきものと思います。我々は生徒の前に立つ教師でありますから、「教える教師」と「学ぶ生徒」、そして媒体としての教材、この三者の力動的な関係をあくまで教師の主体性に立つて研究し実践すべきものと思います。従つて生徒から浮き上つた抽象的、観念的な理論や研究は、我々のとらざる所であります。

第2に、従いましてこの実践研究は、高校現場の実践から求められ、本研究会において高く昇華され、それが再び学校に還流されるべきものであります。いたずらに量の多きことよりも質の高きを誇り、本研究会の華麗さが目立つて現場の実践がかすむことは、本研究会の形骸化として極力排すべきものと思います。

第3に、実践研究の第1は、媒体としての「教材研究」であります。これからの社会は、工業化社会から情報化社会へ移行すると言われております。教材もこの情報の一つであり、自然科学、人文科学の学問の領域も日進月歩であります。我々はこれを教養として受容し、専門的にそしやくし、教育的に取捨選択する力を養わなくてはなりません。教えることは、又学ぶことでもあります。実践研究の第2は、「学習指導の現代化」であります。いかに広く豊かな教材研究を行なつても、それが生徒の学力に転移し、能力として定着せざる限りそれは単なる理論に止まります。従いまして学習指導法の実践研究は、教材研究と生徒理解との一体不離の関係で行なうべきことは言うまでもありません。中学校卒業者の80%近い生徒が高校に入り、高校が国民教育機関としての機能を果たすべきときが来ております。これに伴い高校生の能力が多層化し多様化しておるとき、我々は教材の多様化とともに指導法の多様化をはかる必要があります。このためには学習指導法の改善や開発が必要であります。そのアプローチの方法の一つとして教育工学の理論に基づき近代的な教育機器を駆使し、しかもこれをシステム化してゆくことにより、「教える者から学ぶ者へ」の転化をはかり、学習を効率化させる研究が進んでいます。我々はこの研究を実践の立場から取り入れるべきものと思います。

第4に、本研究会は教科部会の研究、支部地区での研究会として組織化される必要があると思います。年1回1月の札幌での研究会は、その積み上げの上に立つてこそ大きな意義があると思います。そして教科部会の研究、支部地区での研究会ということは、学校ごとの日常の実践研究ということの意味しています。日々のつましいしかも撓ゆまざる実践が、すぐれた教授学習法を生み出す源動力であります。この源動力が本研究会で集約されるなら、本道高校教育を進進せしめる大きなうねりとなるものと確信いたします。

以上のべましてごあいさつとし、今後会員各位のいつそのご支援とご鞭撻をお願いいたします。

本会もようやく草創期を脱し、少年期に入ろうとしております。螢雪 8年、先輩諸氏の着実真摯な姿勢が原動力となつて、会員数も 5000名をはるかに突破し、高校研究会としては全国最大規模を誇る大研究会として、その研究実績とともに、先進都府県より大きく注目されているところであります。その意味に於きましても、内外関係者より本会によせられる期待はまことは大きなものがあるかと存じ、事務局をあずかっているものとして、深い感銘とともに身のひきしまる思いであります。

然しながら、静かに過去を振り返りますとき、本会の趣旨が未だ充分に御理解いただけない先生方もおられましようし、研究実質等についても広く会員の総意を得ることについて未だしの感は、卒直に申し上げざるを得ない状況とも存じます。

又、今日当面する教育の問題の重大さ、深刻さを考えますとき、私共に課せられた責務の愈々大きく、1日として安閑とし得ない毎日であろうと思ひます。

このような諸状勢のもと、皆様の御要請にこたえて、事務局機構も別記の通り再充実致し、本会が、会員諸氏にとつて、真に実のある研修の場となりますよう万全の対策を樹立したいものと念願しております。

各位の一層の御健斗を御期待申し上げ、本会に対する御支援、御協力を切に御願ひ申し上げる次第でございます。

次に過日の役員会で決定されました事項についてその概要を御報告申し上げます。

昭和 45 年度第 1 回役員会

(日時) 昭和 45 年 6 月 13 日(土)

自午後 2 時

(場所) 札幌市北 3 条西 3 丁目

雪印パーラー 4 階会議室

1. 経過報告(44.4.1~45.3.31)

44.5.6 会員加入登録依頼、会員加入名簿
発送

10 昭和 44 年度役員選出依頼発送

20 第 1 回役員会案内

31 第 1 回役員会開催(昭和 43 年度

収支決算報告、昭和 44 年度事業
計画及び予算案審議)

6.3 昭和 44 年度第 1 回役員会決議報
告書発送

7.11 会報第 11 号発送

8.25 昭和 44 年第 2 回役員会開催案内
9.6 第 2 回役員会開催(昭和 44 年度
事業計画、会員加入及び名簿につ
いて、全体集会、教科別集会、紀
要第 7 号発刊について)

9.26 教科別事務担当者会議開催案内

10.3 会員加入促進、研究紀要の依頼に
ついて、部会会報発送

10.9 第 2 回教科事務担当者会議(研究
発表、研究紀要、教科別集會会場
日程作成、部会講師)

10.15 全体集会、教科別集會講師派遣依
頼状、依頼状発送

11.10 会員加入状況集計 4,821 名

11.11 第 7 回研究大会後援依頼状発送
(道教委、札幌市教委、全道高校
長協会)

11.17 第 7 回研究大会開催案内 第 7 回
研究大会要項、大会参加証、参加
申込書発送(全道各高等学校、関
係諸機関)

11.21 地区支部、教科別部会運営費送金

11.25 第 7 回研究大会要項の道教委公報
掲載依頼

11.26 第 7 回研究大会運営会議案内

12.5 "道教委だより"に第 7 回研究大
会要項掲載される

12.6 第 7 回研究大会運営会議開催
北海道教育委員会公報に第 7 回研
究大会要項掲載される

12.9 第 7 回研究大会祝辞依頼状発送

(道教育長、札幌市教育長)

第 7 回研究大会資料編集完了、発
注

12.10 北海道教育委員会に第 7 回研究大
会全体集会運営委員、司会者、教
科別集會運営委員、司会者、研究
発表者名簿作成報告

12.20 第 7 回研究大会申込締切、参加予
定者数の中間集計

- 4.5. 1. 9 第7回北海道高等学校教育研究大会 第1日目 全体集会
- 1.10 第7回北海道高等学校教育研究大会 第2日目 教科別集会
- 1.15 関係方面に第7回研究大会に関する礼状発送
- 2. 6 第3回役員会開催案内状発送
- 2.14 第3回役員会
- 3.20 研究紀要第7号発刊 会報第12号発行
- 4.10 昭和44年度事業実施報告

2. 昭和44年度収支決算報告
(会計監査報告)

3. 昭和45年度役員補選
(別紙役員一覧表参照)

4. 昭和45年度事業計画

(イ) 第8回北海道高等学校教育研究大会の開催

(1) 全体集会

- ・期日—昭和46年1月8日(金)
- ・場所—札幌市民会館(札幌市北1条西1丁目) 大ホール、各会議室
- ・日程

8.30	9.30	10.00	12.00	13.00	15.00
受付	開会式	講演	昼食・休憩	講演	

- ・運営—本部担当

(2) 教科別集会

- ・期日—昭和46年1月9日(土)
- ・場所—国語部会(拓銀ホール)
- 社会部会(未定)
- 数学部会(北陸銀行ホール)
- 理科部会(北大か旭丘高校)
- 芸術部会(市民会館)
- 保体部会(旭丘高校)
- 英語部会(")
- 家庭部会(札幌西高校)
- 農業部会(道庁赤レンガ)
- 工業部会(理容美容センター)
- 商業部会(小樽商業高校)
- 水産部会(小樽水産高校)

- ・日程—全体集会に同じ
- ・運営—各教科部会

(3) 研究テーマ

- ・全体—「高等学校教育と学習指導の現代化について」
- ・部会—

国語—新指導要領案をめぐる国語教育の諸問題
社会—社会科教育の現代化とその方向—学習を深めるためのねらいと内容およびその方法—
数学—未定
理科—未定
保体—保健体育指導上の諸問題とその研究
芸術—創造性の開発をめざす芸術教育
英語—英語教育の授業改善をどのように進めているか
家庭—家庭科教育に於ける効果的指導法
農業—農業教科指導の現代化をはかるために教科内容について
特に指導目標の設定指導方法および評価についての望ましいあり方について研究協議する
工業—工業教育における教育課程、とくに専門教科の構造と学習内容の精選
商業—新しい商業教育実現の為の教育課程編成上の具体的問題点について
水産—これからの水産教育はどうあるべきか
1) 教育課程について 2) 学習指導について

(4) 全体集会講師

- ・原則として中央より2名(但し、うち1名については校長会推薦者を)その内訳としては文学部門1名、自然科学部門1名とする。尚、希望講師があれば申し出られたい。
- ※部会講師は部会ごとに決定されたい。

(5) 大会参加料

- 会員 (200円)
- 非会員 (500円)

上記の参加料を徴収する。

(6) 受付方法

- ①参加申込書(付参加証)に必要事項を記入の上参加料をそえて12月5日(土)までに本部事務局まで申込むこと。
- ②参加証は12月15日までに本部に届くよう発送する。
- ③大会当日参加証持参のものに限り教科毎の受付で資料を受け取り入場する。

④当日参加するものは会場に余裕がある限り
受付けるよう配慮したい。

(ロ) 研究紀要第8号の発行

- ・規格 B5版 250頁～300頁程度
- ・発行予定 昭和46年3月10日(土)
- ・原稿締切 昭和45年11月8日(月)-(厳守)
- ・原稿内訳

◎教科は1教科につき400字詰原稿用紙
(本部規定)70枚以内
原稿の集約、審査等は各教科部会で行なう。
(申込先:各教科事務局)

◎教職一般は1編につき400字詰原稿用紙
(本部規定)30枚以内。原稿の集約、審
査等は支部長及び本部役員で行なう。(申
込先:各支部事務局)

◎研究調査は紀要に調査報告を掲載する。

◎紀要抜き50部は執筆者数分を本部で一
括注文とする。尚、50部以上希望の方は
各個人において印刷業者と直接連絡を取つ
て下さい。

◎論文発表者が決まり次第、本部より地区支
部及び教科部会を通じて必要枚数の原稿用
紙をお送り致します。

(備考)・「紀要」は全一冊として発行する。

締切日は厳守し、以後の分は認めない
ことを確認されたい。

- ・原稿は必ず教科部会長を經由して本部
へ提出することと原稿の厳選をもち願
いしたい。直送されることは絶対ない
ように重ねて願ひする。
- ・紀要論文募集要項はこの「会報」13
号と同時に「道教委だより」にも掲載
するので参照されたい。

(原稿についてのお願ひ)

◎1枚目の原稿用紙の1行目には「題目」を、
2行目には「勤務先」、「執筆者氏名」を
記す。たて書原稿の場合もこれに準じて使
用のこと。

◎文中、ゴシックを要するところはゴジ(朱
書き)、イタリックの場合は^イタ(朱書き)
のように下線を引く。

◎図は、白紙又は青色紙に墨又は黒インクで
鮮明に書き、直ちに凸版にできるようにす
る。

◎図、写真は別紙に書き、余白に番号と氏名

を書く。写真版が多くなるときは予算の關係
上本部研究物担当者にご連絡下さい。

◎図、写真の入るところは原稿中にはつきり指
定すること。

(ハ) 会報第13号、14号の発行

(1)回数 年2回(7月・3月)

(2)内容

(第13号)

- ・全体研究テーマ、部会研究テーマ
- ・研究紀要要項
- ・研究調査要項
- ・事務局(本部・地区支部・教科部会)一覧
- ・役員名簿一覧
- ・昭和45年度事業計画、予算
- ・第8回研究大会について

(第14号)

・第8回研究大会成果報告

(ニ) 研究調査

1. 昭和43年度より継続のもの

①『北海道の地殻構造について』

札幌旭丘高校 高田祐幸 研究紀要第7号
に掲載

②『自動電装品の改良について』

幕別高校 島倉良夫 研究紀要第7号に掲
載

③『世界各国の理科関係教科書の比較研究』

札幌南高校 辺見竜夫 研究紀要第8号に
掲載

④『苫前郡の産業発達史について』

道庁開拓100年記念運動室(旧羽幌高校)
関 秀志 研究紀要第8号に掲載

2. 昭和44年度申込みのもの

昭和44年度完成のもの

①『3ヶ年のホームルーム指導録』

大樹高校 平井文雄 研究紀要第7号に掲
載 昭44、45年継続のもの

②『郷土地理の機械化についての研究』

白糠高校 富水慶一 研究紀要第8号に掲
載

③『現代国語指導理念への考察』

夕張北高校 入江澄夫 研究紀要第8号に
掲載

(昭和45年度の申込受付について)

・申込方法

本年度の採用予定は3～4テーマで、申込み

は教科関係のものは教科部会、教職関係のものは各地区支部でとりまとめ、それぞれ部長、支部長を経由して本部事務局へ9月10日までに連絡する。

・研究調査の期間

研究調査の期間は1年又は2年継続で、1年で完成するものには1万円、2年継続のものには各年度5千円の調査費が配当される。

・紀要発表

研究調査の報告は紀要に掲載するので、内容を400字詰原稿用紙20枚程度に要約し、教科又は支部を経て、11月8日までに本部へ提出する。

5. 昭和45年度予算案

会員数5,200名、会費2,500円

補助金1,000,000円

(参加料5,200円 < 200円 × 2,600名 >)

・支出基準—昨年度に準ずるが、中央講師の旅費は航空運賃計算とする。

6. その他

(1) 年間行事予定表(別紙参照)

(2) 本部事務局構成(別紙参照)

(3) 会員登録名簿作成について

会員登録資格は一年ごとですので、加入申込者は2,500円(年間会費)をそえて当該校長に申込み下さい。(当該校長は学校ごと会員名簿をまとめ支部に提出)

本部直接受付は学校以外のもののみと致します。会員には次の特典がございます。(1)研究紀要の無料配布(2)研究大会参加費などの割引(会員外参加料500円のが会員は200円など)

(4) 役員名簿(別紙参照)

(5) 会員会費の納入方法—支部ごとに北海道銀行 札幌旭ヶ丘支店払込み

(6) 事業計画書

(7) 中教審への意見集約

(8) その他

昭和44年度 会員登録数

札幌	950	北空知	458	釧根	304
函館	440	旭川	456	十勝	313
後志	213	留萌	151	苫小牧	229
小樽	175	名寄	388	室蘭	190
南空知	437	北見	347		

合計 5,052

昭和45年度

年間予定表

北海道高等学校教育研究会

月	日	曜	本 部	備 考	地区支部	教科部会
1	10	(金)	昭和44年度事業実績報告書提出 昭和45年度事業計画書提出			
5	6	(火)	昭和45年度会員加入登録依頼 本部事務局会議	第1回役員会議案書作成		
6	13	(土)	第1回役員会		第1回役員会	第1回役員会
	20	(土)			役員名簿提出期限	役員名簿・部会テーマ提出期限
7	4	(土)	会報13号発行	会報内容 全体研究テーマ・部会研究テーマ・紀要論文・研究発表・研究調査・事務局一覧・役員名簿一覧		
	15	(水)			会員名簿・支部規約提出期限	部会規約提出期限
8	26	(水)	本部事務局会議	第2回役員会議案書作成		
9	12	(土)	第2回役員会	事業計画・実行予算・会員加入について・全体集会・教科別集会	第2回役員会	第2回役員会

月	日	曜	本 部	備 考	地 区 支 部	教 科 部 会
9	19	(土)	教科部会事務担当者会議	第8回研究大会運営について：研究発表・研究紀要・教科集会会場・日程表・部会講師	事業計画書提出	事業計画書提出 事務担当者会議
	26	(土)				
10	11	7	研究紀要論文原稿締切	第8回研究大会講師・役員委嘱状・後援依頼状・公報掲載依頼状発送 大会要項発送	研究紀要論文原稿締切	教科別講師・係・役員会嘱状発送 研究紀要論文原稿締切
		9				
12	5	(土)	第8回研究大会参加申込締切 第8回研究大会運営会議		研究大会参加申込締切	
1	8	(金)	第8回研究大会全体集会 第8回研究大会教科別集会	関係方面に第8回研究大会に関する礼状発送	第8回研究大会 第8回研究大会	第8回研究大会 第8回研究大会 関係方面に礼状発送
	9	(土)				
	14	(木)				
2	20	(土)	本部事務局会議 第3回役員会	第3回役員会議案書作成	第3回役員会	第3回役員会
3	10	(水)	研究紀要第8号発刊・会報第14号発刊	第8回研究大会報告		

高教研、地区支部・教科部会事務局所在地、事務担当者名簿

(地区支部)

地区支部	事務局校	住 所 (電 話)	事務担当者
札幌	札幌北高校	札幌市北25条西11丁目(73)3191	藤田保彦
函館	函館西高校	函館市元町7番17号(23)8416	春日保
後志	倶知安農業高校	虻田郡倶知安町旭町15(2)1149	大橋健造
小樽	小樽桜陽高校	小樽市長橋町3丁目(3)0671	新橋昭夫
南空知	栗山高校	夕張郡栗山町字栗山(2)1343	深尾彰
北空知	芦別高校	芦別市本町5-1(2)2645	在間弘
旭川	旭川西高校	旭川市5条4丁目(22)0731	秋田昌久
留萌	増毛高校	増毛郡増毛町大字暑寒沢村38 Tel 134	奈良勇季
名寄	名寄高校	名寄市幌西5条北5丁目Tel 3066	秋山茂夫
北見	遠軽高校	紋別郡遠軽町南町1丁目Tel 2676	十河巖
釧路	釧路工業高校	釧路市鶴ヶ岱3-5(4)1285	吉田保綱
十勝	芽室高校	河西郡芽室町東3条4丁目Tel 2625	赤塚一夫
苫小牧	苫小牧西高校	苫小牧市西町(4)2977	前田辰雄
室蘭	登別高校	札幌市登別町Tel 2912	高橋敏雄

(教科部会)

教科部会	事務局校	住 所 (電話)	事務担当者
国 語	札幌旭丘高校	札幌市伏見町 1872の4 (56)1221	高 橋 克 美
社 会	札幌開成高校	札幌市元町 170 (71)8171	前 田 武 男
数 学	札幌北高校	札幌市北 25条西 11丁目 (73)3191	藤 田 保 彦
理 科	札幌南高校	札幌市南 18条西 6丁目 (52)2314	辺 見 竜 夫
保・体	札幌旭丘高校	札幌市伏見町 1872の4 (56)1221	桜 井 文 雄
芸 術	札幌旭丘高校	" "	滝 沢 光 郎
英 語	札幌旭丘高校	" "	寺 島 善 五 郎 野 元 哲 造 篠 田 ソ 敏 子
家 庭	札幌西高校	札幌市琴似町宮の森 800 (61)4402	五十嵐 令七
農 業	酪農学園機農高校	江別市字西野幌 582 江別 2541	大 村 正 道
工 業	札幌琴似工業高校	札幌市琴似町発寒 1020 (62)3251	境 富 男
商 業	小樽商業高校	小樽市緑町 3丁目 4号 1番地 (2)0088	野 村 雅 夫
水 産	小樽水産高校	小樽市若竹町 9番 1号 (3)0670	

昭和45年度 北海道高等学校教育研究会役員名簿

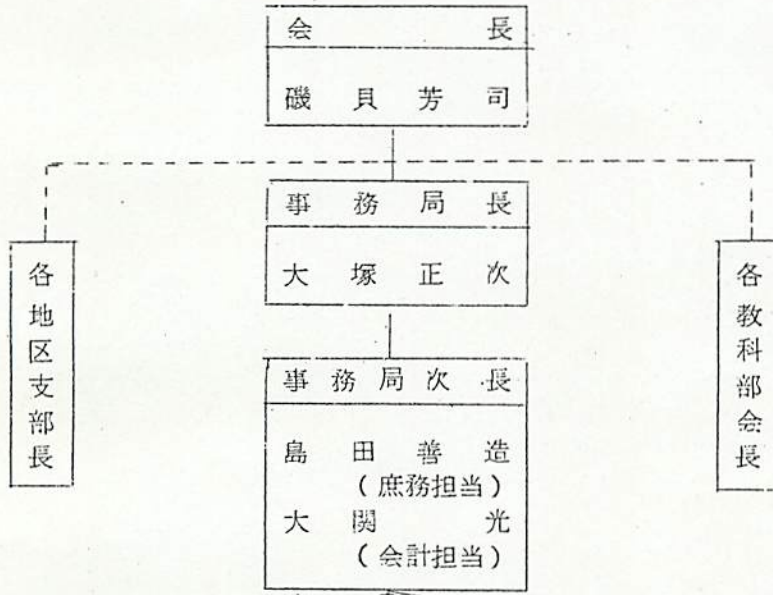
- (会 長) 磯 貝 芳 司 (札幌旭丘)
- (副会長) 村 上 正 雄 (札幌南) 平 野 謹 三 (札幌月寒)
- 川 井 信 雄 (札幌工)
- (監 事) 二階堂 文 雄 (旭商) 山 崎 英 哉 (札幌東商)
- 北 条 忠 (釧江南)
- (顧 問) 梶 浦 善 次 (静修大) 長 瀬 米 蔵

地区支部長

教科部会長

- | | | | |
|-----|----------------|-----|----------------|
| 札幌 | 長 浜 英 作 (札幌北) | 国 語 | 松 本 利 一 (木古内) |
| 函館 | 長 尾 之 児 (函西) | 社 会 | 林 信 義 (樽桜陽) |
| 後志 | 清 水 小 十 (倶農) | 理 科 | 村 上 正 雄 (札幌南) |
| 小樽 | 林 信 義 (樽桜陽) | 数 学 | 斎 藤 国 夫 (札幌啓成) |
| 南空知 | 町 田 敬 治 (栗山) | 保・体 | 川 田 正 徳 (室清水) |
| 北空知 | 松 田 正 幸 (芦別) | 芸 術 | 上 田 由 宗 (札幌西) |
| 旭川 | 大 野 義 輝 (旭西) | 英 語 | 磯 貝 芳 司 (札幌旭丘) |
| 留萌 | 正 津 富 男 (増毛) | 家 庭 | 直 木 通 (札幌西) |
| 名寄 | 高 山 秀 丸 (名寄) | 農 業 | 黒 沢 力 太 郎 (酪農) |
| 北見 | 吉 本 昇 (遠軽) | 工 業 | 寺 岡 二 郎 (札幌琴工) |
| 釧根 | 鈴 木 憲 一 (釧工) | 商 業 | 友 田 義 潔 (樽商) |
| 十勝 | 西 山 勝 (芽室) | 水 産 | 飯 田 毅 (樽水) |
| 苫小牧 | 松 下 源 太 郎 (苫西) | | |
| 室蘭 | 棚 橋 晃 (登別) | | |

昭和45年度 北海道高等学校教育研究会（事務局構成）



分掌	庶務	研究物	研究調査	会員名簿	会計
幹事	○寺島善五郎 柴田雅美 野元哲浩 岩田享子	○沢田正己 細田康弘	○豊島一三 田村正郎	○神田昭 関谷清邦	○伊藤隆喜 松田修
係	松井敢二 稲田亮一	高田裕幸 菅原道行 染谷昌志 尾崎弘樹	桜井文准 綾井健二 吉田功子 山崎節子	武藤英	
業務	1.諸行事担当 2.教科連絡 3.地区支部連絡 4.諸記録整理保管	1.会報・紀要の編集・整理 2.会報・紀要に関する諸連絡	1.研究調査の集計・統計 2.研究調査の企画 3.支部及び教科部会との連絡	1.会員名簿作成、整理 2.会員登録 3.会計との連絡 (会費)	1.予算書の作成 2.金銭出納 3.物品の講入・借入の業務

(注) ○印は各係責任者

(編集後記)

夏期休暇前とて先生方には何かと御多忙な毎日をお過ごしのことと存じます。

事務局研究物係といたしましては、予定通り「会報」13号を刊行の運びとなり、会員の皆様のお手元に配布出来るようになりましたことを喜しく存じます。

なお、原稿依頼・資料提供などいろいろと御協力をいただきましたことを深く感謝申し上げます。

(係 ~ 沢田)